



企業における要求と必要性

令和8年1月9日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

企業における要求は数値と結果である。それは合理主義における企業経営の絶対的な必要性の証明なのである。

これらは日本の村社会とその維持への要求への行動という非効率性が、今日のグローバリズムに対して完全な後塵を得ることを理解するべきである。

これらは詭弁や通念に対して、合理主義は唯一結果における答えを求めるのである。これらは企業経営の健全性であり必ずその正しさなのである。

これらは顧客の要求は価格と製品、品質と納期であり、それらが需要を決定するものなのである。

これらは以上の宗教性や通念を完全に排除し、正しい組織の育成を求めることは企業の必須なのである。

異常な現実とは、その異常な判断を有するためであり、それらが企業経営を完全に崩壊させるものなのである。

これらは企業におけるコンセンサスの育成は、健全性と正常性においてその組織の育成を必ず要求されるものなのである。

これらは健全な経営哲学の育成は、以上の現実を企業から排除する必要性が存在するのである。

これら正しい現実とは必ず正しい現実へ向かうものあり、誤りは誤りを求めるのである。

これらは経営における至心と方針の要求であり、正しい経営者の資質なのである。

異常性は必ずその崩壊を有するものであり、健全性の育成が唯一未来の実現を与えるものなのである。